

2011年度 障害児（者）教育研究委員会 活動報告

I 活動内容・テーマ

昨年度は、数回に渡り特別支援学校を訪問し研修させていただいた。普通校で障害を受け入れるために、特別支援学校との交流は不可欠なものであると考え、本年度も継続していくことにした。以下は本年度のテーマである。

- ・「障害児（者）をめぐる差別や偏見をなくすための課題を研究する」
- ・「特別支援学校と各高等学校との交流のあり方について研究する」

II 活動計画

第1回 5月27日

「各学校における取り組み」報告、奈良県立明日香養護学校紹介（パワーポイントによる）、年間計画の検討

第2回 7月26日

奈良県立奈良西養護学校に学ぶ（施設見学等）

第3回 9月30日

点字について学ぶ

東日本大震災の被災地におけるボランティア活動から学ぶ

第4回 11月22日

奈良県立大淀養護学校に学ぶ。（高校の先生のためのオープンスクール・一日授業参加）

第5回 1月13日

今年度のまとめと課題

第1回 奈良県立明日香養護学校から報告と意見交流を行い、各校における取り組み報告（特別支援学校等との交流について）を行った。続いて年間活動計画を検討し決定した。

下記にアンケートの一例を挙げる。

- ・今日はありがとうございました。高校の先生方の声を直接聞かせていただき、今後の支援のあり方について参考になりました。地域支援、センター的役割ということで、障害を持った児童生徒への支援だけでなく、健常児への啓発も必要なのだなと感じました。

第2回 奈良県立奈良西養護学校の施設見学等を行った。

教頭先生等から施設の案内と学校概要の説明をしていただいた。校舎案内（新設されたプールでの実習指導・教材展示など）、授業見学にご協力いただき感謝の気持ちでいっぱいです。特に、前任の教頭先生の思いのこもった、生徒が使いやすい浴室設計など開校に至るまでの先生方の思いや願いが、校舎案内をしていただくたびにその思いが伝わってきました。高校の旧校舎の活用の大変さと、全面芝生のグラウンド整備にご苦労がうかがわれました。

第3回 奈良県立盲学校 杉岡一子先生、更井孝子先生を講師として、点字の歴史と点字の基本（書き方・指のなぞらえ方など）の説明をしていただいた。その後、点字記号一覧表を横に置き、アイウエオの清音から濁音、半濁音、拗音、特殊音と難易を高めながら教えていただいた。そして、点字で打たれた言葉の読みを、一つ一つ丁寧に解説をしていただきながら、読む練習を行った。続いて、点字板を使い、清音から特殊音を実際に打つ練習を繰り返した。最後に、自分の名前を打つことができたところで終了した。

「たんぼぼの家」プロジェクト・スタッフ 柴崎由美子さんから、東日本大震災のボランティア活動に参加した経緯や活動を通して分かったことなどを話していただいた。「3月20日に柴崎さんの故郷である宮城県にバスで入った。4月当初、行政が支援施設を作ったかどうかによって、障害者への支援が違った。知的障害児は、何が起こったのか分からない状態であって、地震を知らせることが大変であった。避難所の中での障害者の対応で、障害者がマッサージのサービスを行うことで、周りの人たちとの繋がりも出来て、情報を教えてもらうこともできた。アスペルガーの子どもを周りの人に理解してもらえず、車の中で過ごした。」一例であるがこのような、生の声を聞くことが出来た。常日頃から、防災の備えをし、シュミレーションをすることが大切であることを学んだ。

第4回 奈良県立大淀養護学校で開催された高校の先生のためのオープンスクール・一日授業参加に参加をした。大淀養護学校の児童・生徒とともに授業に参加することで、特別支援学校の教育と障害児への理解を深めることを目的として実施されている。本研究委員会の研修の1つとして参加させていただき、12名が参加した。小学部・中学部・高等部の各クラスに所属させていただき、担当生徒さんと一日授業を共にした。

下記にアンケートの一例を挙げる。

- ・今回で3回目の参加になります。普段は1クラス40名で授業をしていて、特に注意を払うことなく1日が終わってしまうこともあります。1人ひとりをしっかり見るという点は、養護学校に学ぶべき点があると思います。また、特別支援コーディネーターとして、研修に行ったりしていますが、何かあった時に考えるのではなく、普段からいろいろな生徒たちの事を考えていきたいと思ったのも参加した理由の1つですが、いろいろな学校の先生方とも交流を持てたらと思います。今回参加した授業は、ハイレベルの生徒たちで、工夫がされている様子がよく分かりました。情報交換で、他の先生方の感想も聞けて、いろいろな考え方のあることが分かりました。

第5回 奈良県立大淀養護学校（高校の先生のためのオープンスクール・一日授業参加）に参加しての意見交流と2011年度の活動のまとめと課題についての意見交流を行った。

Ⅲ 本年度の活動のまとめと課題

- ・一年間の委員会活動を通して、特別支援学校でたくさんの研修をさせていただいたおかげで、多くのことを学ばせて頂いた。実際に肌身で感じてはじめて分かることがいろいろあり、貴重な体験をさせて頂いた。
- ・毎回の活動に目からうろこの事柄が多く、特に印象深いのが、大淀養護の一日授業参加で小学6年生と1日共に授業や生活活動をさせて頂いたことです。個別の生徒に大変工夫をし指導をされて、その生徒の性格や状態を見極めてコミュニケーション指導をされる様子を見て、私たちが普段している生徒指導が浅いことであることを教えて頂きました。生徒一人ひとりに対して目標を持ち、方向性を教員で共通理解することなどは、私たちは見習わなければならないと強く感じました。
- ・色々な特別支援学校の様子を訪問したり、お話を聞かせて頂き、とても勉強になりました。日頃意識しないことに気づかされたり、特別支援のあり方や技術について学ばせて頂き、これからに活かしていきたい。この委員会のあり方は今年の形を継続してほしく思います。
- ・委員会に参加し、新鮮な情報を手に入れる機会となりました。このような機会に各方面での状況や情報を知りたいと思います。健常者の立場から教育活動、学習活動を見がちで、障害者の立場が見えにくいところがありました。問題意識を持つうえでも先生方と共通の視点を持つことが出来て良かったです。
- ・高校で特別支援を必要とする生徒に対して、大淀養護学校から色々な方法を提示して頂き本当に良かったです。各校での教育支援計画の必要性について今後どのようにしていくのか、意見を頂き参考になりました。今後は、各特別支援学校と各高校の意見交換の必要性を感じました。この委員会で情報交換の場を設けていただければと思います。
- ・1年の締めくくりとしてそれぞれの学校の抱えている問題などしっかり話し合える時間を持って大変有意義でした。見学や研修を終えて話し合いを持つことで内容が深まったと思います。特別支援学校と高校の先生方がお互いの学校や生徒について本音で話し合える場があることで、障害者問題の啓発に繋がると思います。推進委員をさせて頂くことで、高校の講演会や研修依頼を受けることは、本校の教育内容や教員を通じて県内の高校生への啓発ができていたんだと思いました。今盛んに言われているインクルーシブな社会への一助とも言えるのではないのでしょうか。
- ・特別支援学校での研修は1回実施した方が良いと思います。この委員会で得た情報や学びをどのように現場に返していくのが課題です。毎年社会の色々な出来事とからみ、新しい障害者に関する問題が生じている。新聞やネットでの記事を持ち寄り意見交換等をするのも可能ではないのでしょうか。
- ・自己研修のためになる学校訪問を実施してほしい。この委員会を中心に各学校への問題意識を持つような委員会として活動してほしい。
- ・特別支援について色々な話ができて良かったです。日々各先生方が経験されたこと、思っていることを聞き、良い勉強になりました。違う学校間で交流することの大切さや必要なことを強く思いました。